平成二十九年九月投句　【久留米・クリーク・古墳】

夏草や釣少年の赤帽子
筑後路や遠山青く彼岸花　勝利
瓢箪の小さきを残し日除枯る

秋の陽に竹干してある神の庭
うっそうと古墳の小径草の露　節子
花殻をつけた零余子の売られゆく

いつかいつか言ひをる尾瀬の花野かな
霧深き但馬は偲ぶ土地となり　光子
船着き場らしき石段蘆原に

踏み入りし墳墓の蜘蛛が傘に
茅干す匂ひ籠りて秋の宮　真理子
うなぎ屋の寄進多かり放生会

露けしや周濠二重の古墳山
新涼の風に神事の竹を干す　由紀子
イヤフォンをはずし花野の風をきく